

電車どおり



今月の表紙
当院正面ロビーへ設置された
クリスマスツリー(ウクライナカラー)



ホームページ
はこちら



今月の表紙は平口様より寄贈頂いた黄色と青色に彩られたクリスマスツリーです。
我々医療従事者への感謝の想いと、戦地ウクライナに対する平和への願いが込められております。
この場を借りて、平口様へ厚く御礼申し上げます。
ありがとうございました。

もくじ

- 1. 世界糖尿病デー 市民公開講座 レポート … 2p
- 2. 中病職員 もうひとつの顔～第二弾～ … 3p
- 3. 面会許可証が変わりました☆ … 4p
- 4. 新型コロナウイルス感染症対策 … 4p



基本方針

- 道南の基幹病院として急性期医療に取り組みます。
- 断らない救急医療を実践し、住民の信頼と期待に応えます。
- 総合周産期母子医療センター及び北海道がん診療連携指定病院として高度で専門的な医療を提供します。
- 「患者さまの権利」を尊重し、安心して安全なチーム医療を実践します。
- 医療環境の発展と充実のため、地域の行政・医療機関との連携を強化します。
- ワークライフバランスに配慮した職場環境づくりと人材育成に力を入れます。

【患者さまの権利】

- ・安全で良質の医療を平等に受ける権利
- ・自らが受けている医療について、十分な説明を受け、知る権利
- ・セカンドオピニオンを求める権利
- ・自らが受ける医療に参加し自己決定する権利
- ・個人のプライバシーが守られる権利
- ・個人として常にその人格、価値観が尊重される権利

【患者さまの義務】

- ・自らの健康状態を医療者にできるだけ正確に知らせる義務
- ・医療者の説明や自らの疾病状態の理解に務める義務
- ・病院の規則や医療者の指示に従い、医療に参加・協力する義務
- ・他の患者さまの治療や医療者の業務に支障をきたさない義務
- ・受けた診療に対し、医療費を支払う義務

1. 世界糖尿病デー 市民公開講座 レポート

「世界糖尿病デー」の11月14日にWeb市民公開講座を開催致しました。当院の糖尿病・内分泌内科科長の高橋先生を司会とし、木村管理栄養士、坂下薬剤師、糖尿病・内分泌内科 小野医師が講演を行いました。



木村管理栄養士は食事のバランスについて講演致しました。

食事は主食・主菜・副菜を毎食取り入れた食事を可能な限り1日3食決まった時間に食べることで、インスリンが効率よく働くようになります。

また、食べる順番として野菜から食べるのも食後血糖値の上昇を抑えるのに効果的です。



坂下薬剤師は薬の服用について講演致しました。

薬は用法・用量を守って服用することで、その薬を安全に尚且つ、効果を最大限に発揮することができます。

また、飲み忘れが多くても隠さずに伝えることも大切です。これは医療者が薬の効果を見定めるために重要な情報となります。

そして薬だけに頼るのではなく、食事・運動療法も確実に行わなければなりません。

薬について伝えたい3つのこと

函館中央病院 薬剤師 目谷真里



糖尿病・内分泌内科 小野医師は、糖尿病の仕組みや糖尿病患者に向けられる誤解と正しい知識を身に付ける重要性について講演致しました。

そもそも糖尿病は膵臓から分泌される血糖値を下げるホルモンである「インスリン」の作用不足によって生じる慢性の高血糖を主徴とする疾患です。

糖尿病は4種類に分類され、発症する原因は一つではありません。また、治る病気でもあります。

しかし、糖尿病のイメージとして、不摂生、運動嫌い等が発症原因とされ、合併症が必ずあり、インスリン注射を打っている人＝重症 といった偏見（スティグマ）があります。

こういった偏見に対し、正しい知識を広報し、糖尿病を持つ方が安心して普段の生活を送り、いきいきと過ごす社会を作る“アドボカシー活動”がとても重要です。

そんなアドボカシー活動の一つとして、将来的に『糖尿病』という言葉がなくなるかもしれません。これは『糖尿病』という言葉から疾患に対する誤った知識を助長させ、偏見を生んでおり、また患者さん自身も『糖尿病』という疾患名に対し、不快感を示している為です。

糖尿病アドボカシー

～糖尿病の誤解を解いて真実を知る!～



函館中央病院 糖尿病・内分泌内科
小野 真祐子



2022年11月14日



11月14日は世界糖尿病デー

糖尿病の方も、そうでない方も糖尿病のことを知り、思い出したり、考えたりするきっかけの日になってくれたら!



市民公開講座とは別に、当日の夕方から当院を世界糖尿病デーのイメージカラーであるブルーにライトアップ致しました。

また、市民公開講座の様子は当院のYouTubeチャンネルへアップしております。是非ご覧ください♪



市民公開講座の動画はこちら



2. ～中病職員 もうひとつの顔～ 函館市PTA連合会会長

函館中央病院は職員が約1,000名在籍しており、その職種や働き方も様々です。また、1,000名もいると普段のお仕事とは他に様々な活動をしているスタッフもおります。

そんな“中病職員”の知られざる一面を紹介するシリーズ、『～中病職員 もうひとつの顔～』。第二弾となる今回は 函館市PTA連合会 の会長さんです。

函館市PTA連合会は、子ども達の健やかな成長のため、地域や行政と連携し、市内各小中学校のPTA活動と保護者同士の繋がりを支える活動をしています。

先日報道で通学中の児童集団に車が突っ込む痛ましい事故を知りました。

駆けつけた救急隊員も現場検証をした警察官も被害児童が通う学校の保護者でした。保護者達は「ガードレールで整備されていたら防げた事故であり、以前から問題視していた。PTA活動で強く要請すればよかった。」と後悔の念を話されておりました。この要請こそが子ども達のためのPTA活動であり、自治体を動かす原動力になります。

ですからPTA活動とは、たくさんの目で子ども達を危険から守る事が使命と考えています。

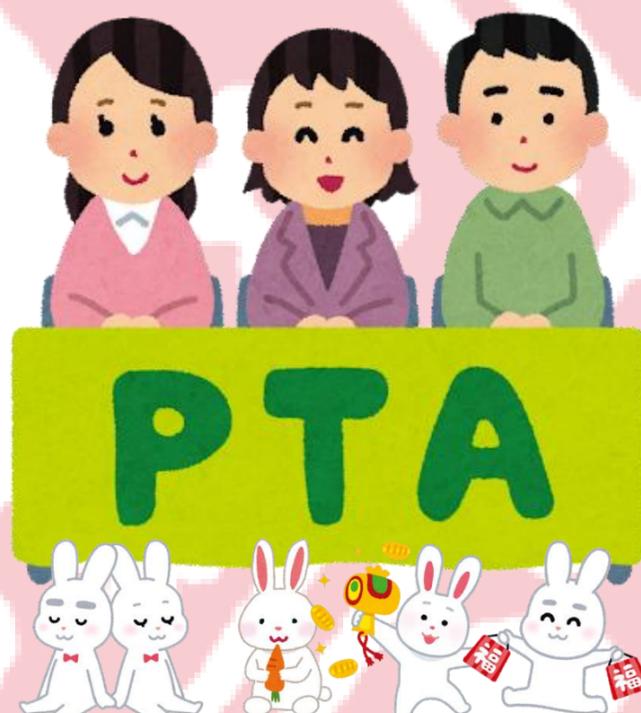


図1.函館市PTA連合会HPより



図2.子育て研修会の模様

また、函館市PTA連合会は市内の色々な委員会に所属しています。中には「いじめ」「居場所」「支援」について議論する場があり、子ども子育て支援室を有する当院のスタッフ、そして函館市PTA連合会会長としての2つの顔を活かし、当院の理念「子どもと共に、子育てを共に、地域と共に」を掲げ活動していきます。

【寄稿】函館中央病院 診療放射線技術科・駒野圭史

3. 面会許可証が変わりました☆～顔認証検温ログプリンター導入～

この度当院では、入院患者さんへの面会許可証として、2022年11月発売の顔認証検温ログプリンターを2022年11月11日に導入致しました。**全国初導入**となります。

これまで当院では、病棟へ来訪する面会者に対し、シールタイプの面会許可証へ日にちなどを職員が書き込み、発行しておりました。

今回導入した顔認証検温ログプリンターでは、顔認証の検温器にて検温を行っていただくと、体温はもちろん、顔写真、検温日時、許可番号などが印刷されたシールが面会許可証として自動印刷されます。また、顔認証検温ログプリンターには自動音声機能も備わっており、マスク未着用者や発熱者へのアナウンスが自動的に発せられます。

1階正面玄関横、総合案内に設置

顔認証タイプの検温器で検温



プリンターにより面会許可証が即発行

シールタイプの為、衣服などへ貼付して下さい



この仕様変更によって、感染症対策向上やセキュリティ対策向上といった効果が期待されます。当院へお越しの際には1階総合案内にある、顔認証検温ログプリンターにもご注目下さい。

4. 新型コロナウイルス感染症対策【抜粋】(R4.12.28 時点)

入院患者さまとの面会について

現在、入院患者さまとの面会を**全館禁止**としております。なお、病院からの呼び出し等でご来院の場合は、正面玄関の総合案内へお申出下さい。ただし、以下に該当する方は、病院からの呼び出し等でご来院の場合でも面会をお断りすることがございますので、予めご了承ください。

- ◆発熱、咳、喉の痛み、だるさ、関節痛、嘔吐、下痢などの症状のある方
- ◆マスク未着用の方

面会禁止中

新型コロナウイルス感染防止の為、**入院患者様への面会を禁止**しております

病院からの呼び出し等でご来院の場合は、正面玄関の総合案内へお申し出ください

以下に該当する方は、**病院からの呼び出し等でご来院の場合でも面会をお断りすることがございます**

- ◆発熱、咳、喉の痛み、だるさ、関節痛、嘔吐、下痢などの症状のある方
- ◆マスク未着用の方

病院長